

# 令和5年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川西中学校

## はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

## <全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和5年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

### 1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査対象

中学校第3学年、原則として全生徒

### 3 調査実施日

令和5年4月18日(火)

#### 4 調査の内容

(国語、数学、英語) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校調査は、国語、数学、英語とする。</li> <li>・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等</li> <li>② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容</li> </ol> </li> <li>・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。</li> </ul>	
	【中学校 国語・数学・英語 各50分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など  【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

### 本校の調査結果の概況

#### 中学校

<教科に関する調査>   は全国平均正答率を上回ったもの



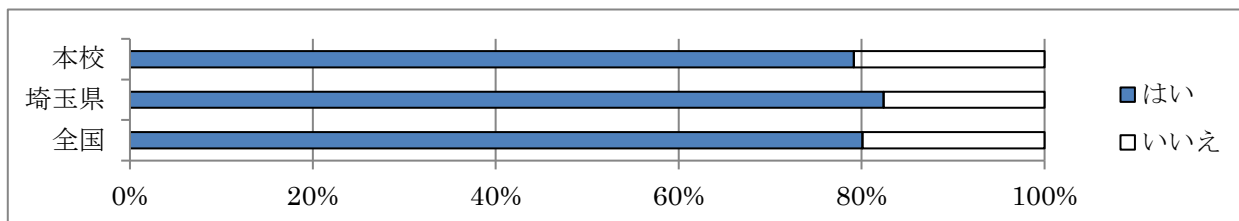
国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	2	71.0	68.8	67.5
情報の扱い方に関する事項	2	64.0	64.3	63.4
我が国の言語文化に関する事項	3	77.9	75.9	74.7
話すこと・聞くこと	3	82.8	83.4	82.2
書くこと	2	63.6	65.0	63.2
読むこと	4	71.3	65.2	63.7

数学				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と式	5	56.6	62.9	63.0
図形	3	35.3	34.5	33.2
関数	4	48.4	52.0	51.2
データの活用	3	50.4	52.0	48.5

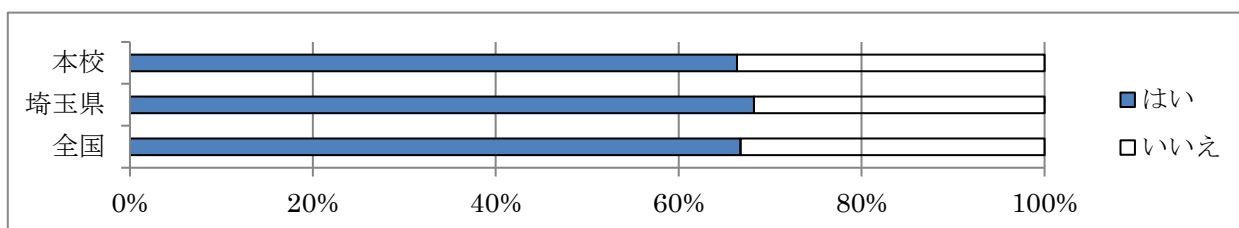
英語				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
聞くこと	6	58.4	59.6	58.4
読むこと	6	49.9	51.4	51.2
書くこと	5	21.9	24.1	23.4
話すこと	5	9.0		12.4

<生徒への質問紙調査> (主なものをグラフで表示)

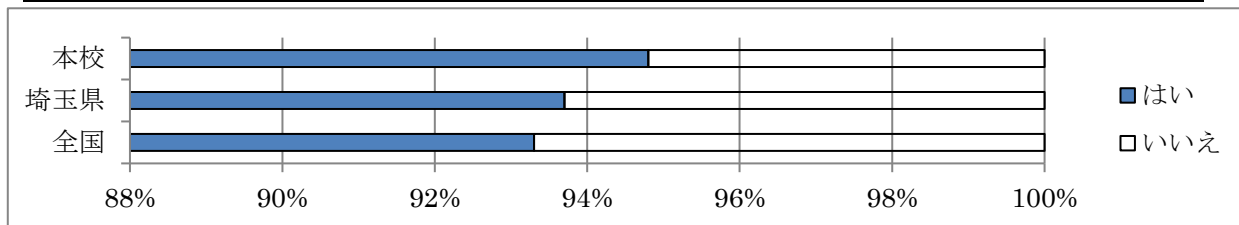
自分には良いところがあると思いますか。



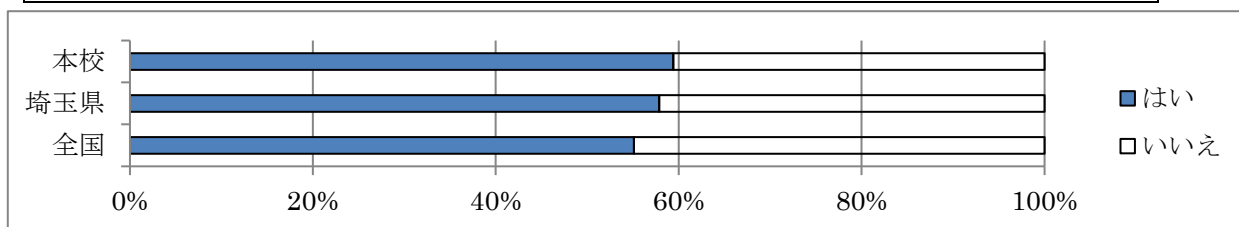
将来の夢や目標をもっていますか。



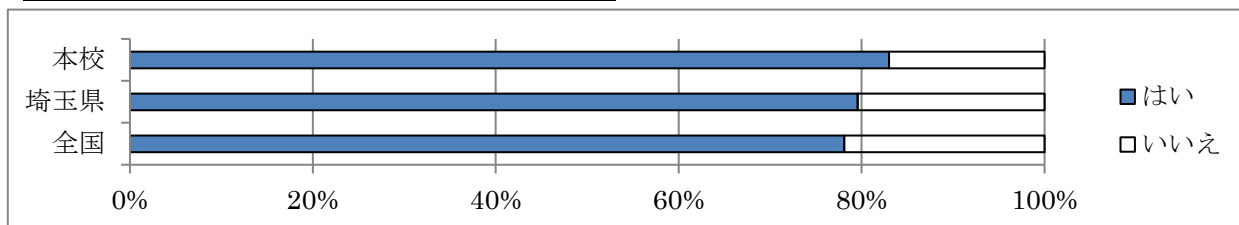
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)



毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



## 本校の調査結果の分析・考察

### <国 語>

#### 【領域別】

全ての領域において全国平均を上回っていた。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」の分野では、授業の帯単元として漢字小テストを行い、難しい熟語が出た際には意味や使い方を全体で共有をしたり、文法の学習を散りばめたりした成果と考えられる。

「情報の扱い方に関する事項」の分野では、現在、ICTを取り入れた授業を展開しているが、まだまだ試行錯誤が必要な領域である。

「我が国の言語文化に関する事項」の分野では、古典の学習の際に現代仮名遣いの確認を念入りに行っている成果があったと考えられる。

「話すこと・聞くこと」の分野では、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、他者との意見交流の機会を重視した成果が認められる。

「書くこと」の分野では、定期試験で課題作文を出題し、返却時に文脈の乱れを正したり、課題に正対しているかの確認をしたりした成果であると考えられる。

「読むこと」の分野では、全国平均が63.7%、埼玉県が65.2%、そして本校は71.3%と大きく上回ることができた。文章を読む際は、まず内容の整理や、作者の気持ちや意図を必ず読み取り、自分勝手な解釈をしない学習を繰り返した成果であると考えられる。

#### 【問題（例）】

##### 問題 2 二

【A】と【B】の文章に共通している表現の効果を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 主張に関わる言葉を引用することで、伝えたいことを印象付けている。
- 2 敬体でいいねいに述べることで、伝えたいことを身近に感じさせている。
- 3 問いかけを用いることで、伝えたいことに興味をもたせている。
- 4 冒頭の一文に結末を示すことで、伝えたいことを明確にしている。

正答：1

本校：73.5% 全国：63.0%

<分析>

二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する問題である。

今回の問題では「引用」されていることに気づくことができるかどうかであったが、「引用」の重要性については常々伝えている。

全国平均に比べ、10%以上の差がでていることから、「読むこと」に関する能力が育っていると考えられる。

#### 【問題（例）】

##### 問題 1 三

【インタビューの様子】の——線部②「課題を解決するために、星野さんはどのようにしてアイデアを生み出しているのですか。私は美術部に所属しているのですが、よいアイデアが浮かばず、作品の制作が滞ってしまうことがあるのです。」について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 正しい情報を引き出すために、自分が事前に調査したこととの相違点を指摘しながら質問をしている。
- 2 さらに聞きたい話を引き出すために、星野さんの発言に自分の体験を関連付けて質問している。
- 3 一般的な考えを引き出すために、これまでの具体的な事例についての話を整理して質問をしている。
- 4 新たな意見を引き出すために、星野さんとは異なる立場の意見を取り上げながら質問をしている。

正答：2

本校：72.1% 全国：76.6%

<分析>

相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する問題である。

本校の生徒は、自分に自信のない生徒が多く、

自ら発表、発言したり、他者の言葉を受けて質問をしたりできる生徒が少ない。

インタビュー形式の活動などを取り入れ、学級全体の場でも意見交流を円滑にできるようにしていくことが課題であり、そこから「話すこと・聞くこと」の能力を高めていきたい。

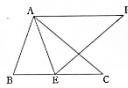
## <数 学>

### 【領域別】

領域別にみると「図形」については県平均も全国平均も上回っている。また「データの活用」も全国平均を上回っている。ICT が活用しやすい分野での正答率が高く、ICT の活用が生徒の理解力向上につながったことがうかがえる。しかし、「数と式」については、全国平均を 6.4 ポイント下回っており、特に「数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる」問題に関しては、全国平均を 10 ポイント以上下回っていることから基本的な計算力など、数学的な知識・技能に課題があると思われる。「関数」に関しては、県平均や全国平均との差はそこまで大きくはないが、問題によっては正答率の差が大きく、知識・技能の定着にばらつきが見られる。

### 【問題（例）】

#### 問題 9 (2)



BC // AF であることは、次のように証明できます。

証明 1

△ABC = △AEF より、合同な図形の対応する辺と角はそれぞれ等しいから、  
 AB = AE ……①  
 ∠ABC = ∠AEF ……②  
 △AEF において、二等辺三角形の底角は等しいから、  
 ∠EAF = ∠AEF ……③  
 ②、③より、  
 ∠ABC = ∠EAF ……④  
 また、①より、△ABE は二等辺三角形である。  
 二等辺三角形の底角は等しいから、  
 ∠ABE = ∠AEB ……⑤  
 ∠ABE = ∠ABC だから、④、⑤より、  
 ∠EAF = ∠AEB  
 よって、錯角が等しいから、  
 BC // AF

二等辺三角形でない 2 つの合同な三角形の場合には、証明 1 の **I** が成り立たないから、**II** が成り立たない。よって、∠EAF = ∠AEB にならないから、BC // AF とならない。

**I**、**II** に当てはまるものをそれぞれ書きなさい。

正答 I ∠EAF = ∠AEF

II ∠ABC = ∠EAF

本校 43.1% 全国 37.0%

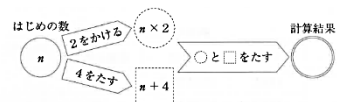
### <分析>

条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる問題である。

図形の知識が定着しており、かつ証明の意味を理解して問題に取り組んでいる生徒が多いと考えられる。

### 【問題（例）】

#### 問題 6 (3)



夏希さんの計算

はじめの数として入れる整数を  $n$  とすると、はじめの数に 2 をかけた数は  $n \times 2$ 、4 をたした数は  $n + 4$  と表される。  
 計算結果は、  
 $n \times 2 + (n + 4)$   
 $= 2n + n + 4$   
 $= 3n + 4$

「はじめの数にかける数が 2、たす数が 4 ならば、計算結果はいつでも 4 の倍数になる」という予想が成り立たないことがわかります。上の夏希さんの計算をもとに考えたとき、はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつならば、計算結果はいつでも 4 の倍数になると予想できますか。

正答 はじめの数にかける数が 3、たす数が 4 ならば、計算結果はいつでも 4 の倍数になる  
 本校 30.7% 全国 40.9%

### <分析>

結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明ができるかをみる問題である。

計算力の低さや計算過程を考える力が足りず、成り立つ事柄の把握ができていないことが考えられる。まずは基本的な計算における知識・技能を定着させる必要がある。

## <英語>

### 【領域別】

「聞くこと」の領域では、全国平均と同じ正答率であった。その中で、「短い説明の要点を捉えることができるかどうか」の問題に関しては、県平均・全国平均を約6%上回っている。しかし、「情報を正確に聞き取ることができるか(最も適切に表している絵を選ぶ)」の問題では、全国平均を下回っている。このことから、大まかな内容から聞き取ることができるが、一問一答形式で問われる内容の正確な理解に課題があると分かった。

また、「書くこと」の領域では、県平均・全国平均に比べ、正答率が低かったが、記述式の問題の正答率が全国平均に比べ約2.5%上回っていたり、無回答率が約2%低かったりすることから、自分の考えや意見を表現しようと粘り強く取り組む姿勢がうかがえる。しかし、文章の正確性が低いことから、文法や表現がどの場面や状況で使われるのか、また、どのような語順や仕組みになっているのかといった基礎・基本の定着が必要だと考えられる。

### 【問題 (例)】

#### 問題8(2)

ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く。

正答

(例) I agree with you. If robots do our housework, we will have more time.

本校：24.8% 全国：19.5%

<分析>

社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかを見る問題で、思考・判断・表現の力が試されている。

概要を正確にとらえ、書くべき内容を自分自身の言葉で表現しようとする姿勢がこの結果に繋がっていると考えられる。

正確性では、まだ課題は残るが、定期テストや授業でのライティング活動において、正確な文章ではなくても、まずは自分の分かる単語や表現を使って書いてみようという意識が浸透してきた成果と考えられる。

### 【問題 (例)】

#### 問題9(1)①

与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる。

A: Do you have any plans for summer vacation?

B: Yes. I ( visit ) my uncle in London. I can' t wait.

A: Wow, that' s nice!

正答

(例) am going to visit

本校：30.7% 全国：40.4%

<分析>

未来表現( be going to)の肯定文を正確に書くことができるかどうかを見る問題である。

会話の前後の内容から、必要な表現方法や文法を選択し、それを正確に書くことに苦手意識を持っている生徒が多いと考えられる。そのことを受けて、3学年では、1・2年次の基本文を正確に読み、伝え、書くことができるようになるための帯活動を実践している。

## <質問紙調査から>

<p>【(例1)】</p> <p><b>質問</b> 学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。</p> <p><b>回答結果</b> 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合 <b>94.8%</b></p> <p>&lt;分析&gt; ○本校の上記の質問に対する結果 94.8%は、県の 93.7%、全国の 93.3%をともに上回っている。 ○本校は、令和3年度より「主体的・対話的で深い学びによる学習活動の充実～ICT の活用を取り入れた授業実践を通して～」を主題とした研究を進めている。どの教科の授業においても ICT 機器を積極的に活用する授業を行った結果、生徒たちも ICT 機器を活用することが学習の手助けになったと考えられ、この数値に繋がったと考えられる。</p>	<p>【(例2)】</p> <p><b>質問</b> 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。</p> <p><b>回答結果</b> 「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と答えた生徒の割合 <b>99.3%</b></p> <p>&lt;分析&gt; ○本校の上記の質問に対する結果 99.3%は、県の 88.3%、全国の 87.5%をともに大きく上回っている。この結果は、左記に記述したように、本校の研究における ICT の活用状況の成果と考えられる。 ○ICT の活用状況は、県・全国平均を大きく上回っているが、生徒自身の活用スキルにおいては個人差があり、課題のある生徒がみられる。そのため、さらに支援の仕方について工夫していく。また、ICT を活用した個別最適な学びや協働的な学びについてさらに研究していく必要がある。</p>
<p>【(例3)】</p> <p><b>質問</b> 自分には、よいところがあると思いますか。</p> <p><b>回答結果</b> 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合 <b>78.5%</b></p> <p>&lt;分析&gt; ○本校の上記の質問に対する結果 78.5%は、県の 82.4%、全国の 80%をともに下回る。国語科の分析にも「本校の生徒は、自分に自信のない生徒が多い」と記載され、質問紙調査の結果と一致する。 ○日頃の授業の様子をからも、自分の考えに自信をもてず、意見を述べるのが苦手な様子が見られる。よさを認める評価の在り方、主体的・対話的で深い学びを実現するための、違う考え方を知る楽しさを味わえる授業改善が求められる。</p>	<p>【(例4)】</p> <p><b>質問</b> 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)</p> <p><b>回答結果</b> 「よくしている」「ときどきしている」と答えた生徒の割合 <b>58.5%</b></p> <p>&lt;分析&gt; ○本校の上記の質問に対する結果 58.5%は、県の 57.8%、全国の 55%を上回っている。特に「よくしている」と答えた生徒の割合は県や全国の結果を大きく上回る。1学年のときから続けてきた自主学習の成果と考えられる。 ○個に応じた自主学習のほか、定期テストの範囲を3週間前に伝え、2週間分の学習計画を立てることを1学年の時から繰り返してきた成果と考えられる。今後も家庭学習の習慣を身に付ける取組を継続したい。</p>

## <埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和5年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

### 1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

### 2 調査対象

中学校第1・2・3学年 原則として全生徒

### 3 調査実施日

令和5年5月11日（木）

### 4 調査の内容

#### （1）教科に関する調査

中学校第1学年 国語、数学 第2学年、第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

#### （2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

## 本校の調査結果の概況

<教科に関する調査>   は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた生徒の割合…前年度から学力が伸びた生徒の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	13	65.4	69.8	13	51.9	54.0	13	60.9	58.4
情報の扱い方、我が国の言語文化	5	41.4	44.2	8	64.4	65.0	6	56.5	54.3
話すこと・聞くこと・書くこと	5	53.1	56.3	3	66.0	72.1	5	54.6	56.1
読むこと	8	67.5	70.9	7	58.4	61.4	8	53.3	51.6
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑	↑↑		↑↑	↑↑

数学（内容は算数）	第1学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	11	60.4	61.0
図形	10	44.9	49.9
変化と関係	8	46.3	55.9
データの活用	4	56.4	60.9
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑	↑↑



数学	第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と式	13	59.2	59.8	11	66.3	66.7
図形	9	50.0	50.4	8	62.9	61.7
関数	6	62.2	62.9	7	53.1	52.6
データの活用	5	67.8	67.6	7	64.6	58.8
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑

英語	第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
聞くこと	10	61.0	62.7	10	55.5	56.7
読むこと	18	51.7	54.7	18	49.2	50.4
話すこと	2	45.6	46.9	2	22.1	26.5
書くこと	6	33.7	35.5	6	49.6	48.2
※学力の伸びた生徒の割合					↑↑↑↑	↑↑↑

＜生徒への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」（「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本校の達成率、 は80%以上（%）

内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年
○はじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	97.7 99.3	96.5 100.0	95.8 96.1
	② 授業開始時刻	96.7 97.2	97.3 98.6	97.4 98.4
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	88.1 91.5	90.8 89.9	92.1 91.5
	④ 整理整頓	76.5 78.2	77.5 78.4	80.4 81.4

○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	82.6	83.1	84.5
		82.4	89.2	88.4
	⑥ 返事	89.4	90.1	90.1
		91.5	89.9	89.1
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
⑦ ていねいな言葉づかい	90.9	92.7	92.5	
	95.1	89.9	93.0	
⑧ やさしい言葉づかい	88.7	89.9	90.2	
	91.5	87.8	86.8	
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	91.4	92.5	93.1
		97.2	95.9	96.1
	⑩ 話を聞き発表する	79.0	77.7	78.7
		81.0	71.6	73.6
	6 生活のきまりを守る			
⑪ 集団の場での態度	93.1	94.4	95.2	
	95.8	95.9	95.3	
⑫ 掃除・美化活動	87.4	86.8	87.2	
	93.0	93.9	84.5	

## 本校の学力向上の取組

### 授業における取組

#### ☆1 主体的・対話的で深い学びによる学習活動の充実

##### ～ICTの活用を取り入れた授業実践を通して～

- (1) ICT機器の活用で視覚に訴える資料を多用し、わかりやすい授業を実践しています。
- (2) ICT機器を活用して、図形や描画を使って資料の作成やアイデアを形にすることで、情報を整理し、論理的に説明できる力や想像力を養います。
- (3) 1人1台端末を活用して、生徒が自分の考えを図や文章で他者と共有する協働的な学習に取り組んでいます。

#### ☆2 学びに向かう力の育成

- (1) 「授業の5つの心構え」（学力向上プラン参照）に全校で取り組んでいます。
- (2) 「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の3つの視点を持ち、1時間の授業を大切にします。

#### ■3 思考力・判断力・表現力を伸ばす授業の実現

- (1) 少人数による「教え合う」「意見を聞いて比べ深める」などの学習活動を通して、思考力・判断力・表現力を育み、学習意欲の一層の向上を図ります。

- (2) 教師による評価だけでなく、生徒同士による相互評価を日常化し、学びを深めることを通して生徒個々の自己肯定感を高めます。

## 授業以外の取組

### ☆1 家庭学習の習慣化

- (1) 学期始め、長期休業前に家庭学習の方法や時間の目安を確認しています。  
(2) 定期テスト3週間前に範囲を発表し、計画的に学習に取り組む習慣を身に付けています。  
(3) 家庭学習の成果を発表する場面を設定するなどして、学習意欲を高めます。

### ■2 生徒一人一人に合った学力向上に向けての取組

- (1) 夏季休業中に補習学習の時間を設定し、基礎的基本的な内容の定着を図りました。  
(2) 全国及び県学力学習状況調査の結果を踏まえ、自分の力に合わせて取り組める自由課題を用意したりしています。

### ☆…成果を上げたと考えられる取組

### ■…課題を解決するための取組

## 保護者・地域の皆様へ

本年度の埼玉県学力学習状況調査では、2学年の国語、2学年3学年の数学、3学年の英語で前年度から学力が伸びた生徒の割合が、全県と同割合を大きく上回りました。多くの生徒が前年度より学力を伸ばすことができました。

本校では令和3年度から3年間、「主体的・対話的で深い学びによる学習活動の充実」をテーマに主にICT機器の活用を取り入れた授業改善に取り組んだ成果を今年度まとめ、一定の成果が認められたところです。

埼玉県学力学習状況調査質問紙調査では、ほとんどの項目で80%以上の達成率が示され、規律ある態度を身に付けている状況がうかがえます。全国学力・学習状況調査では「毎日決まった時間に就寝する。」「家で計画的に学習に取り組んでいる。」という質問に肯定的な回答をした生徒が全国、県に比較して多く、日々の生活を大切に過ごしていることがわかります。ご家庭のご協力に感謝申し上げます。

今後も家庭・地域との一層の連携を図り生徒一人一人の健やかな成長と学力向上に取り組んでまいります。

## 本校の学力向上プラン

### 1 本校の学習指導目標

#### (1) 「学力」の3つの要素の育成

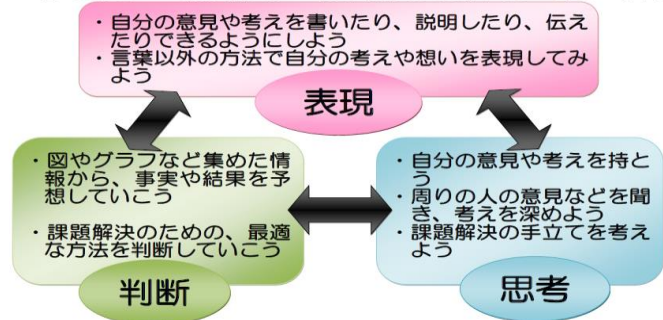
- ① 「知識・技能」：特に基礎的・基本的な学習内容を生徒に確実に身に付けさせる。
  - ② 「思考力・判断力・表現力」：よく考え、豊かに表現できる力を育てる。
  - ③ 「学びに向かう力・人間性等」：主体的に学習に取り組む姿勢を育てる。
- (2) 主体的・対話的で深い学びによる学習活動の充実
- ① ICTの活用を取り入れた授業実践を積み重ねることで、生徒の学力向上を目指す。
  - ② 変化の時代に対応する自ら学び、考え、判断する力を育成する。
- (3) 「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の3つの視点を持ち、1時間1時間の授業を大切に、生徒の主体的な学習活動の充実を図る。

### 2 具体的な手立て

#### (1) 「授業の約束（3つの行動）」

- ① 生徒の思考を可視化する言語活動の充実、ICT活用を通して、思考力・判断力・表現力を育み、学力の向上を図る。
- ② 「意見を聞いて比べ、深める」「自分の意見や考えを発表する」「協力して実習・実技や話し合いをする」などの活動を取り入れ、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で授業改善を進める。

#### 「思考力・判断力・表現力を伸ばそう！」



#### (2) 「授業の約束（5つの心構え）」

- ① 右の「授業の5つの心構え」をすべての教室に掲示し、学校全体で取り組む。
- ② 「授業の約束」を守り、主体的に学ぶ姿勢で授業を受ける。
- ③ 教師も生徒も一期一会の1時間の授業を大切にする。

#### 授業の5つの心構え

進んで学び、自らを向上させよう

- 一、2分前着席をしよう
- 二、大きな声であいさつをしよう
- 三、意欲的に取り組もう
- 四、自分の考えを表現しよう
- 五、準備をしてから休み時間にしよう

#### (3) 学習指導

- ① 互いに協力して学び合う学習集団を醸成する。
- ② 教科部会の定期的な開催を軸に、指導と評価の一体化を図り、常に授業改善に努め、わかる喜びを味わわせる指導法の工夫・改善を図る。
- ③ 定期テストの範囲を3週間前に伝え、計画に学習に取り組む指導をする。また、基礎・基本の確実な定着を図るため、長期休業後に確認テスト（国・数・理・社・英）を全学年で実施し、結果の活用を図る。
- ④ 家庭学習の習慣化を目指し、自主学習について指導・助言をする。
- ⑤ 校内研修の充実を図り、学力調査結果の分析を通して、指導と評価の工夫・改善に取り組む。